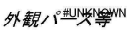
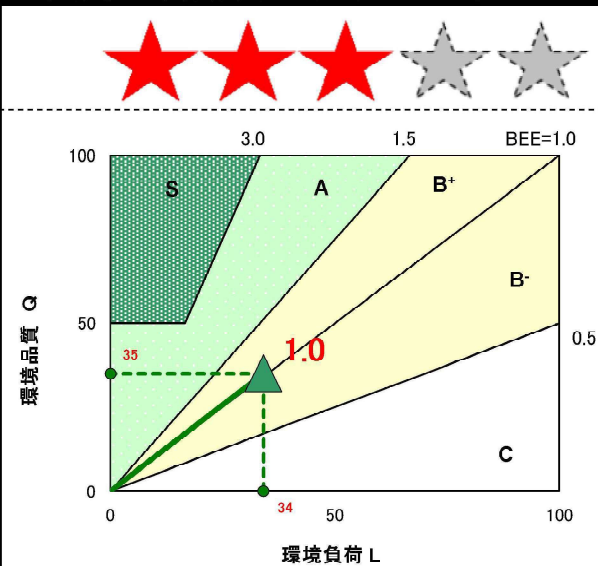


CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	帯山保育園	階数	地上4階	 外観バーチャル等 外観図の貼り付けは、 【外観図】シートへ貼り付けしてください。
建設地	熊本県熊本市東区月出2丁目2305-	構造	S造	
用途地域等	準工業	平均居住人員	160 人	
省エネ・地域区分	7地域	年間使用時間	3,432 時間/年	
建物用途	学校,	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工時期	2025年2月 予定	評価の実施日	2024年6月6日	
敷地面積	1,636 m ²	作成者	株式会社 吉田設計	
建築面積	733 m ²	確認日	2024年6月6日	
延床面積	2,466 m ²	確認者	株式会社 吉田設計	

2 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)



BEE = 1.0

■ BEE (環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値 (排出率)	ランク表示
30%以下	★★★★★
30%超60%以下	★★★★
60%超80%以下	★★★
80%超100%以下	★★
100%超	★

■ ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示)



排出率

79%

3 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

			74	
	評価点	■ 熊本県重点評価基準		
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	87.0	判定値(評価点)	ランク表示	
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	46.2	100点以上		
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	70.0	80点以上100点未満		
【重点事項4】 循環型社会の実現	78.0	60点以上80点未満		
		40点以上60点未満		
		40点未満		
※評価点は、100点以上が推奨です。				

CASBEE®-建築(新築)

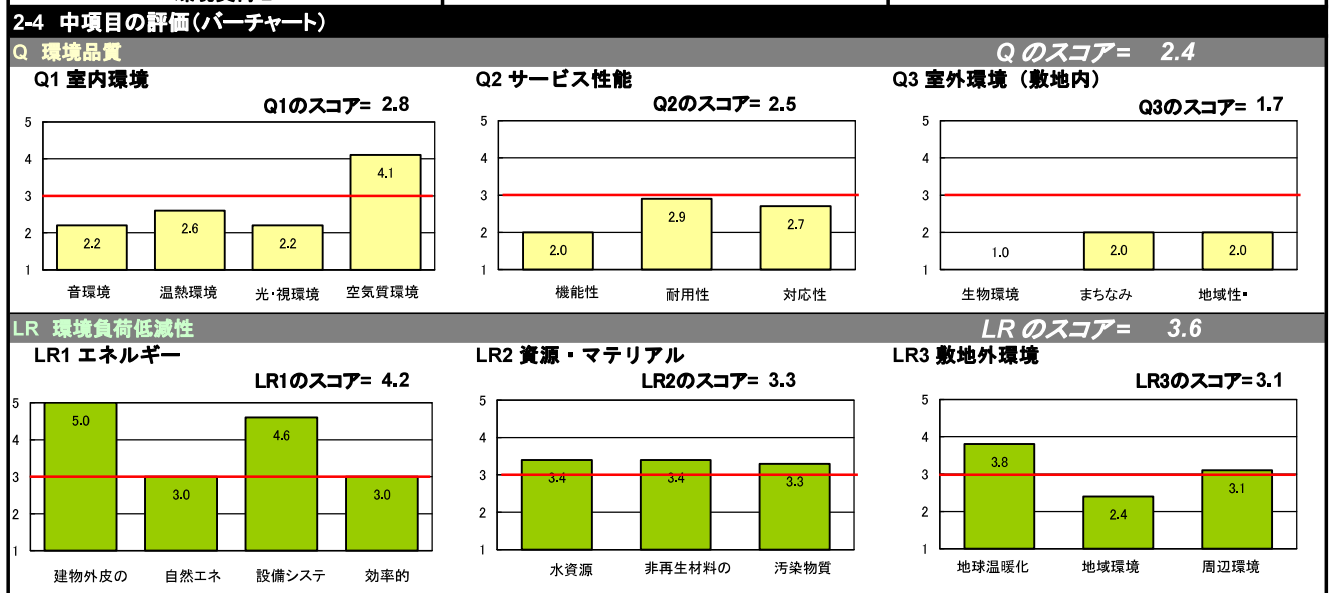
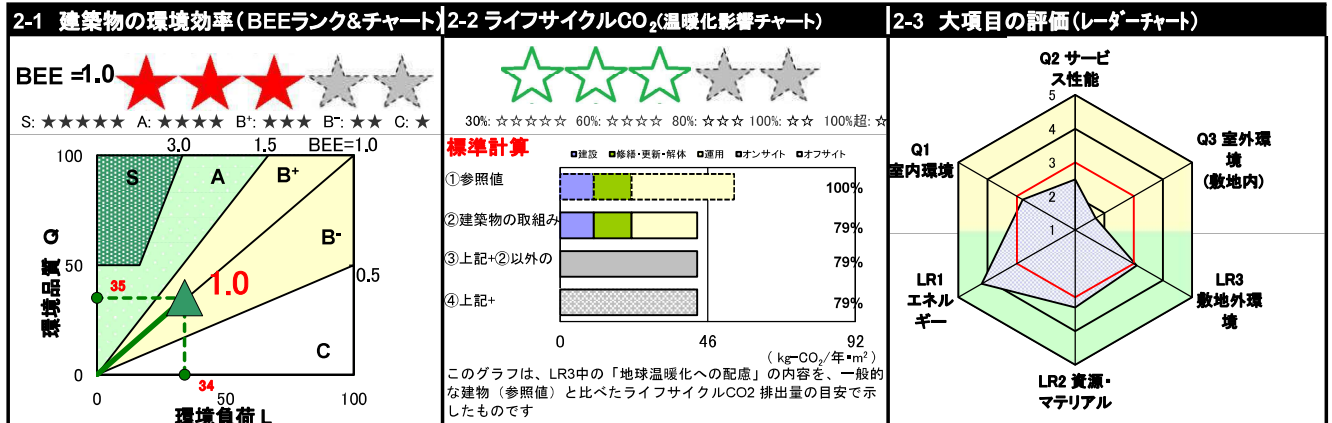
評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	帯山保育園	階数	地上4階
建設地	熊本県熊本市東区月出2丁目2305	構造	S造
用途地域等	準工業	平均居住人員	160 人
省エネ・地域区分	7地域	年間使用時間	3,432 時間/年(想定値)
建物用途	学校,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2025年2月 予定	評価の実施日	2024年6月6日
敷地面積	1,636 m ²	作成者	株式会社 吉田設計
建築面積	733 m ²	確認日	2024年6月6日
延床面積	2,466 m ²	確認者	株式会社 吉田設計

外観/パース等WV

図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版 帯山保育園		評価点が3超の項目 水色セル欄に数値やコメントを記入 ⇒Q1～Q3シートやLR1～LR3シートにおける接点の根拠に倣って、要旨を記入してください				
スコアシート 実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						2.4
Q1 室内環境			0.40		-	2.8
1 音環境		2.2	0.15	-	-	2.2
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音		1.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		1.0	0.30	-	-	
2 界壁遮音性能		1.0	0.30	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		1.0	0.20	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		1.0	0.20	-	-	
1.3 吸音		3.0	0.20	-	-	
2 温熱環境		2.6	0.35	-	-	2.6
2.1 室温制御		2.2	0.50	-	-	
1 室温		3.0	0.60	-	-	
2 外皮性能		1.0	0.40	-	-	
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式		3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境		2.2	0.25	-	-	2.2
3.1 屋光利用		2.4	0.30	-	-	
1 屋光率		2.0	0.60	-	-	
2 方位別開口		-	-	-	-	
3 屋光利用設備		3.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策		1.0	0.30	-	-	
1 屋光制御		1.0	1.00	-	-	
3.3 照度		3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御		3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境		4.1	0.25	-	-	4.1
4.1 発生源対策		4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆建材の採用	4.0	1.00	-	-	
4.2 換気		3.6	0.30	-	-	
1 換気量		3.0	0.33	-	-	
2 自然換気性能	0.080≧0.067(1/15)	5.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	-	-	
4.3 運用管理		5.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-	
2 喫煙の制御	建物全体禁煙(健康増進法(受動喫煙対策))	5.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	2.5
1 機能性		2.0	0.40	-	-	2.0
1.1 機能性・使いやすさ		1.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-	
3 バリアフリー計画		1.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3 内装計画		3.0	1.00	-	-	
1.3 維持管理		2.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		2.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水:B 排水:B 給湯:B	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		2.6	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-	
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		2.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			2.7	0.30	-	-	2.7
3.1 空間のゆとり	1 階高のゆとり		2.2	0.30	-	-	
	2 空間の形状・自由さ	0.1 ≤ 壁長さ比率: 0.25 < 0.3	1.0	0.60	-	-	
	3.2 荷重のゆとり		4.0	0.40	-	-	
	3.3 設備の更新性		3.0	0.30	-	-	
	1 空調配管の更新性		3.0	0.40	-	-	
	2 給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	1.7
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.65	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.64	4.6	0.50	-	-	4.6
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水コマ、節水機器の採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.4	0.60	-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		再生密粒度アスファルト混合物、再生クラッシュランスラグ	4.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		軽鉄下地、OAフロア	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		ノンフロン断熱材使用	4.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		LCCO2排出率: 79%	3.8	0.33	-	-	3.8
2 地域環境への配慮			2.4	0.33	-	-	2.4
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			1.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		光害対策ガイドラインのチェックリストの一部を満たす、広告照明なし	4.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

■ 環境関連の配慮事項

帯山保育園

印刷:モノクロ
設定済み

・適宜、箇条書き等で記入してください。

・キーボード操作:改行の際は【Alt】キー&【Enter】キーで次の行に進みます。

計画上の配慮事項		※必ず、何らかのコメントを記入してください。
総合	地域の景観に配慮した建物を目指し、全面道路よりセットバックし、周辺への圧迫感を軽減する計画とした。	
Q1 室内環境	吹き抜けを設け開放的な空間とした。 F☆☆☆☆建材を使用。 全館禁煙とし、施設内の空気環境に配慮。	
Q2 サービス性能	設備系統はメンテナンスを考慮した計画とした。 居室の広さを確保し、快適性を高めた計画とした。	
Q3 室外環境 (敷地内)	建物彩度を落とし、周辺景観との調和を図った。	
LR1 エネルギー	大きな開口部やトップライトによる自然採光の活用。	
LR2 資源・マテリアル	断熱材はすべてノンフロン。	
LR3 敷地外環境	地球温暖化防止に努めている。	
その他	特になし	

熊本県重点評価結果 スコアシート ※手動入力は不要			実施設計段階
建物名称	帯山保育園		

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

熊本県重点評価結果				総合評価点		74
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				87	0.40	34.80
Q1-2.1.2	外皮性能	1.0	0.05			
Q1-3.1.3	屋光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	屋光制御	1.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	5.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.6	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				46.2	0.20	9.24
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	1.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				70	0.20	14.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	2.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				78	0.20	15.60
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.2	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	2.7	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	4.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数